

# 県内景気動向調査

株式会社清水地域経済研究センター

## 要旨

〈今期（2026年4月時）〉

### 業況：仕入単価が上昇して売り上げが減少し、業況全般は悪化

- ・今期の業況全般 DI（「良い」から「悪い」を差引きし指数化）は、前回（2026年1月時調査）に比べ▲2.5<sup>ポイント</sup>の▲2.5と悪化し、先行き（2026年7月時予想）も今期比▲2.5<sup>ポイント</sup>の▲5.0と悪化する見通し。
- ・売上 DI は前回比▲3.3<sup>ポイント</sup>の▲9.1と減少したが、先行きは今期比+0.8<sup>ポイント</sup>の▲8.3と増加する見通し。
- ・採算 DI は前回比▲11.1<sup>ポイント</sup>の▲26.4と悪化し、先行きも今期比▲0.9<sup>ポイント</sup>の▲27.3と悪化する見通し。
- ・販売単価 DI は前回比▲6.4<sup>ポイント</sup>の 14.0と低下したが、先行きは今期比+16.0<sup>ポイント</sup>の 30.0と上昇する見通し。
- ・仕入単価 DI は前回比+18.0<sup>ポイント</sup>の 57.0と上昇したが、先行きは今期比▲1.2<sup>ポイント</sup>の 55.8と低下する見通し。
- ・引き合い DI は前回比+2.3<sup>ポイント</sup>の▲5.0と増加し、先行きも今期比+2.5<sup>ポイント</sup>の▲2.5と増加する見通し。
- ・在庫 DI は前回比▲3.8<sup>ポイント</sup>の▲0.8と減少し、先行きも今期比▲4.3<sup>ポイント</sup>の▲5.1と減少する見通し。
- ・今期は、仕入れ単価が上昇して売り上げが減少し、業況全般は悪化した。先行きは、売り上げは上昇するものの採算の悪化が続き、業況全般も悪化する見通しとなった。

### 資金繰り、設備、人員数はいずれも改善、労働時間は増加し、賃金は減少

- ・資金繰り DI は前回比+5.2<sup>ポイント</sup>の▲5.0と改善したが、先行きは今期比▲4.2<sup>ポイント</sup>の▲9.2と悪化する見通し。
- ・設備 DI は前回比+0.3<sup>ポイント</sup>の▲3.3と改善し、先行きも今期比+1.6<sup>ポイント</sup>の▲1.7と改善する見通し。
- ・雇用において、人員数 DI は前回比+3.4<sup>ポイント</sup>の▲28.7と改善し、先行きも今期比+4.1<sup>ポイント</sup>の▲24.6と改善する見通しだが、人手不足は続く。労働時間 DI は、前回比+6.9<sup>ポイント</sup>の 9.8と増加したが、先行きは今期比▲2.4<sup>ポイント</sup>の 7.4と減少する見通し。賃金 DI は前回比▲2.8<sup>ポイント</sup>の 27.9と減少したが、先行きは今期比+7.3<sup>ポイント</sup>の 35.2と増加する見通し。

### 経営上の課題と対応方針

- ・経営上の課題としては、「採算悪化」が 58.2%と最も多く、主な対応方針は「収益力確保」が 32.8%であった。2番目に多かったものが「売上減少・停滞」の 45.1%であり、主な対応方針は「新規取引先開拓」が 34.4%であった。3番目に多かったものが「人手不足・技術者不足」が 43.4%であり、主な対応方針は「新規採用・獲得」が 33.6%であった。

### 現在の中東情勢により経営上最も懸念するコスト要因

- ・現在の中東情勢により最も懸念するコスト要因として、最も多かったものは「原材料・部品の調達価格の上昇」が 45.1%であった。2番目に多かったものは「原油・燃料価格の高騰（輸送費、燃料費など）」が 39.3%であった。

### 中東情勢の悪化に伴うサプライチェーンへの影響

- ・中東情勢の悪化に伴うサプライチェーンへの影響について、現在の状況に最も近いものとして最も多かったものは「今後1~3カ月以内に影響が出ると予想している」が 39.3%であった。2番目に多かったものは「すでに一部の調達・配送に停滞が生じている」が 36.9%であった。

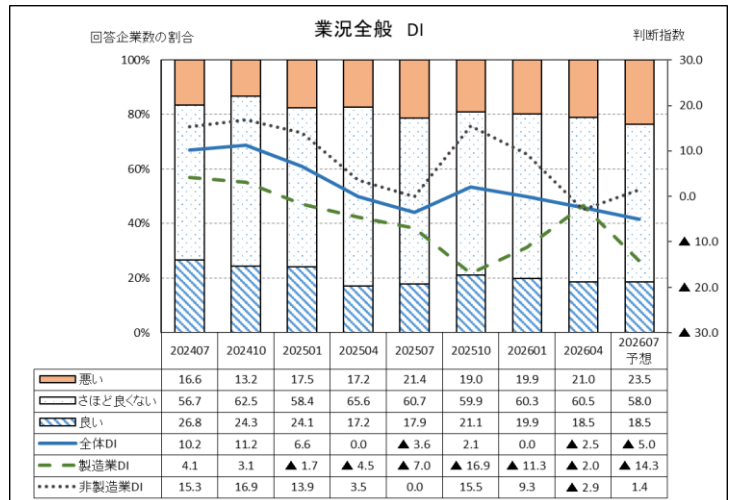
## 業況全般

### 業況全般 DI は前回に比べ悪化し、先行きも悪化する見通し

今期の業況全般 DI における全体 DI は、▲2.5（前回比▲2.5ポイント）と悪化した。

製造業 DI は▲2.0（同▲9.3ポイント）と改善したが、非製造業 DI は▲2.9（同▲12.2ポイント）と悪化した。先行きでは、全体 DI は▲5.0（今期比▲2.5ポイント）と悪化する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲14.3（同▲12.3ポイント）と悪化するが、非製造業 DI の先行きは 1.4（同+4.3ポイント）と改善する見通しである。

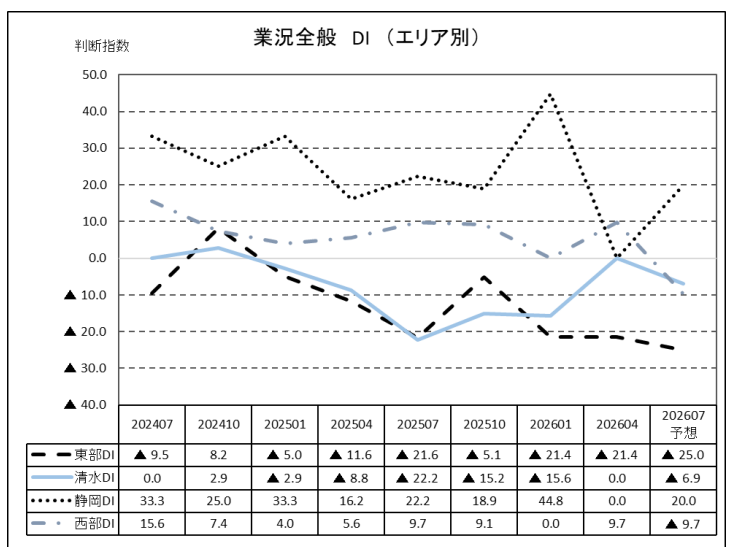


## 業況全般（エリア別）

エリア別の業況全般 DI は、清水エリア、西部エリアは改善したが、東部エリアは横這い、静岡エリアは悪化した。先行きは、静岡エリアは改善するが、東部エリア、清水エリア、西部エリアは悪化する見通し

今期のエリア別の業況全般 DI は、清水 DI が 0.0（前回比+15.6ポイント）、西部 DI が 9.7（同+9.7ポイント）と改善したが、東部 DI は▲21.4（同±0.0ポイント）と横這い、静岡 DI が 0.0（同▲44.8ポイント）と悪化した。

また、先行きについては、静岡エリアは改善する見通しであるが、東部エリア、清水エリア、西部エリアは悪化する見通しである。



## 売上

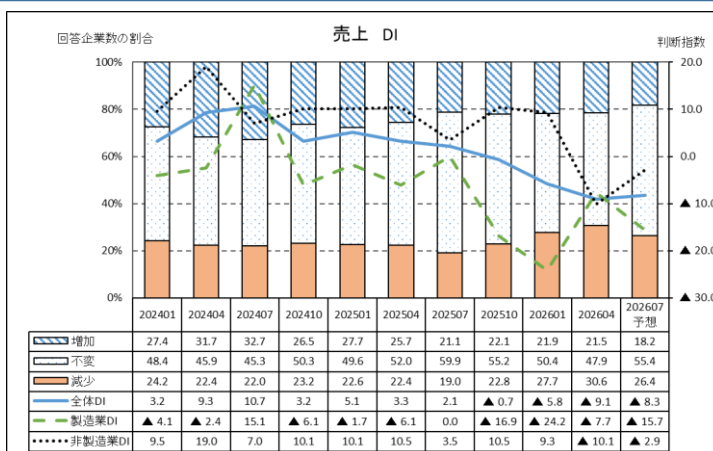
売上 DI は前回に比べ減少したが、先行きは増加の見通し

今期の売上 DI における全体 DI は、▲9.1（前回比▲3.3<sup>ポイント</sup>）と減少した。

製造業 DI は▲7.7（同+16.5<sup>ポイント</sup>）と増加したが、非製造業 DI は▲10.1（同▲19.4<sup>ポイント</sup>）と減少した。

先行きでは、全体 DI は▲8.3（今期比+0.8<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲15.7（同▲8.0<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは▲2.9（同+7.2<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。



## 採算

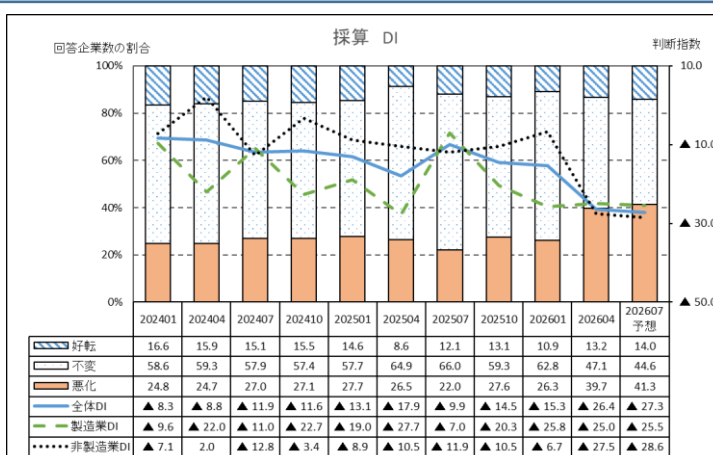
採算 DI は前回に比べ悪化し、先行きも悪化する見通し

今期の採算 DI における全体 DI は、▲26.4（前回比▲11.1<sup>ポイント</sup>）と悪化した。

製造業 DI は▲25.0（同+0.8<sup>ポイント</sup>）と改善したが、非製造業 DI は▲27.5（同▲20.8<sup>ポイント</sup>）と悪化した。

先行きでは、全体 DI は▲27.3（今期比▲0.9<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲25.5（同▲0.5<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しであり、非製造業 DI の先行きも▲28.6（同▲1.1<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しである。



## 販売単価

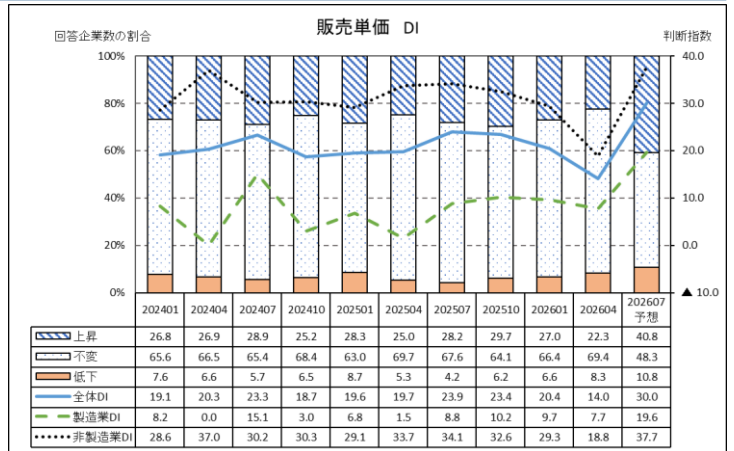
販売単価 DI は前回に比べ低下したが、先行きは上昇する見通し

今期の販売単価 DI における全体 DI は、14.0（前回比▲6.4<sup>ポイント</sup>）と低下した。

製造業 DI は 7.7（同▲2.0<sup>ポイント</sup>）と低下し、非製造業 DI も 18.8（同▲10.5<sup>ポイント</sup>）と低下した。

先行きでは、全体 DI は 30.0（今期比+16.0<sup>ポイント</sup>）と上昇する見通しである。

製造業 DI の先行きは 19.6（同+11.9<sup>ポイント</sup>）と上昇する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 37.7（同+18.9<sup>ポイント</sup>）と上昇する見通しである。



## 仕入単価

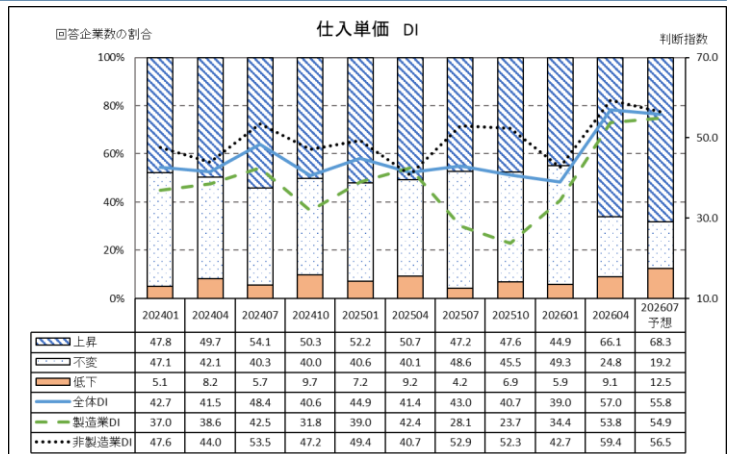
仕入単価 DI は前回に比べ上昇したが、先行きは低下する見通し

今期の仕入単価 DI における全体 DI は、57.0（前回比+18.0<sup>ポイント</sup>）と上昇した。

製造業 DI は 53.8（同+19.4<sup>ポイント</sup>）と上昇し、非製造業 DI も 59.4（同+16.7<sup>ポイント</sup>）と上昇した。

先行きでは、全体 DI は 55.8（今期比▲1.2<sup>ポイント</sup>）と低下する見通しである。

製造業 DI の先行きは 54.9（同+1.1<sup>ポイント</sup>）と上昇する見通しであるが、非製造業 DI は 56.5（同▲2.9<sup>ポイント</sup>）と低下する見通しである。



## 引き合い

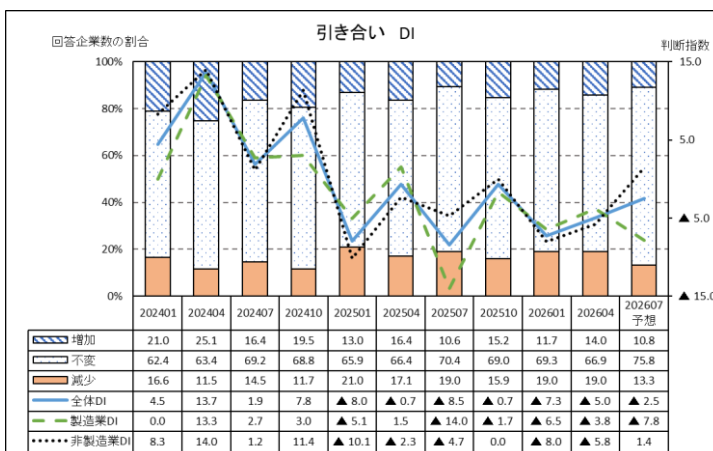
引き合い DI は前回に比べ増加し、先行きも増加する見通し

今期の引き合い DI における全体 DI は、▲5.0（前回比+2.3<sup>ポイント</sup>）と増加した。

製造業 DI は▲3.8（同+2.7<sup>ポイント</sup>）と増加し、非製造業 DI も▲5.8（同+2.2<sup>ポイント</sup>）と増加した。

先行きでは、全体 DI は▲2.5（今期比+2.5<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲7.8（同▲4.0<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは1.4（同+7.2<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。



## 在庫

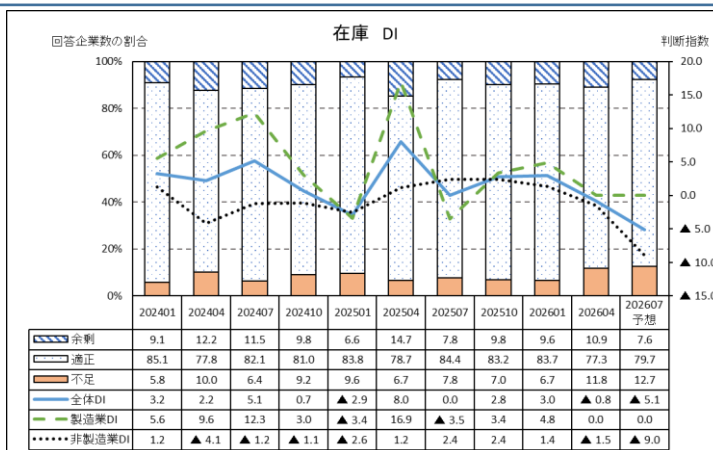
在庫 DI は前回に比べ減少し、先行きも減少する見通し

今期の在庫 DI における全体 DI は、▲0.8（前回比▲3.8<sup>ポイント</sup>）と減少した。

製造業 DI は0.0（同▲4.8<sup>ポイント</sup>）と減少し、非製造業 DI も▲1.5（同▲2.9<sup>ポイント</sup>）と減少した。

先行きでは、全体 DI は▲5.1（今期比▲4.3<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しである。

製造業 DI の先行きは0.0（同±0.0<sup>ポイント</sup>）と横這いの見通しだが、非製造業 DI の先行きは▲9.0（同▲7.5<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しである。



## 資金繰り

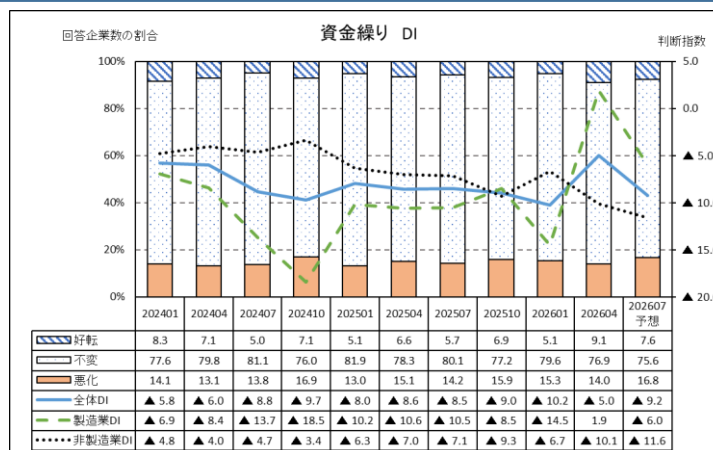
資金繰り DI は前回に比べ改善したが、先行きは悪化する見通し

今期の資金繰り DI における全体 DI は、▲5.0（前回比+5.2<sup>ポイント</sup>）と改善した。

製造業 DI は1.9（同+16.4<sup>ポイント</sup>）と改善したが、非製造業 DI は▲10.1（同▲3.4<sup>ポイント</sup>）と悪化した。

先行きでは、全体 DI は▲9.2（今期比▲4.2<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲6.0（同▲7.9<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しであり、非製造業 DI の先行きも▲11.6（同▲1.5<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しである。



## 設備

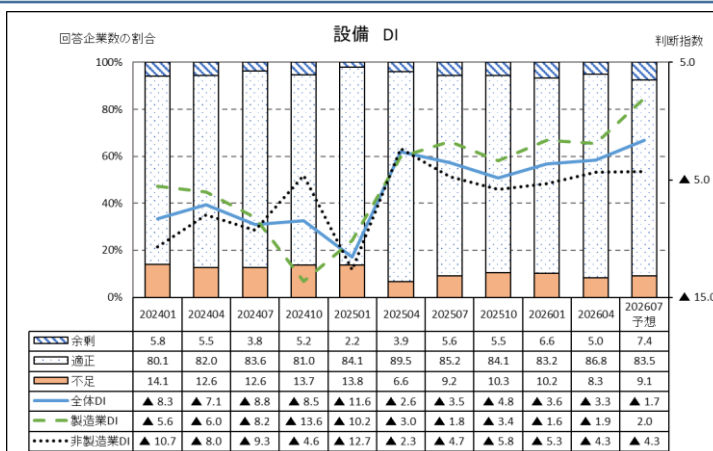
### 設備 DI は前回に比べ改善し、先行きも改善する見通し

今期の設備 DI における全体 DI は、▲3.3（前回比+0.3<sup>ポイント</sup>）と改善した。

製造業 DI は▲1.9（同▲0.3<sup>ポイント</sup>）と悪化したが、非製造業 DI は▲4.3（同+1.0<sup>ポイント</sup>）と改善した。

先行きでは、全体 DI は▲1.7（今期比+1.6<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは 2.0（同+3.9<sup>ポイント</sup>）と改善し、非製造業 DI の先行きは▲4.3（同±0.0<sup>ポイント</sup>）と横這いの見通しである。

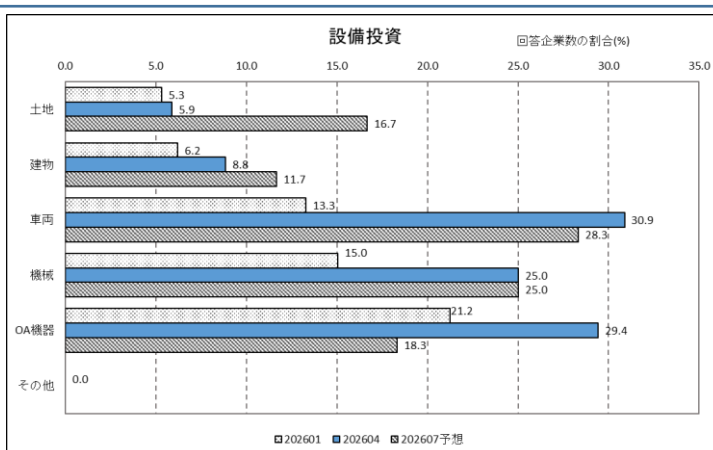


## 設備投資（複数回答可）

### 設備投資については、先行きも車両、OA 機器、機械が主流

今期の設備投資の状況は、車両が 30.9%、OA 機器 29.4%、機械 25.0%、建物 8.8%、土地 5.9% であった。

先行きの設備投資の見込みは、車両 28.3%、機械 25.0%、OA 機器 18.3%、土地 16.7%、建物 11.7% となった。



## 投資意欲

### 「やや積極的」が 27.8%、「やや消極的」が 25.3%と増加し、「積極的」が 5.1%、「変わらず」が 30.4%、「消極的」が 11.4%と減少した

今期の投資意欲の状況は、

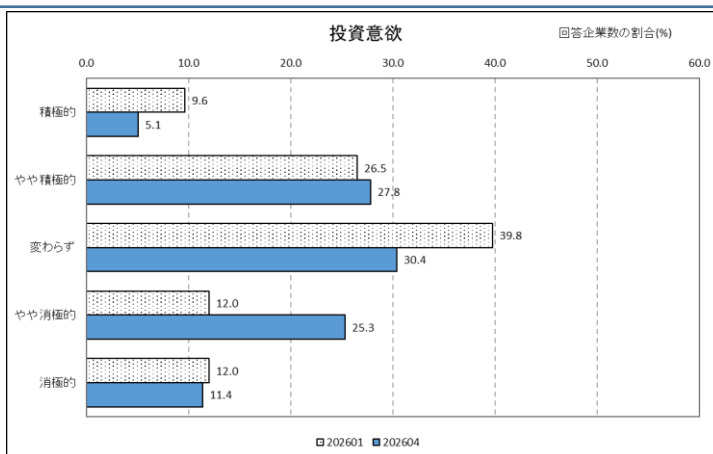
「積極的」5.1%（前回比▲4.5<sup>ポイント</sup>）、

「やや積極的」27.8%（同+1.3<sup>ポイント</sup>）、

「変わらず」30.4%（同▲9.4<sup>ポイント</sup>）、

「やや消極的」25.3%（同+13.3<sup>ポイント</sup>）、

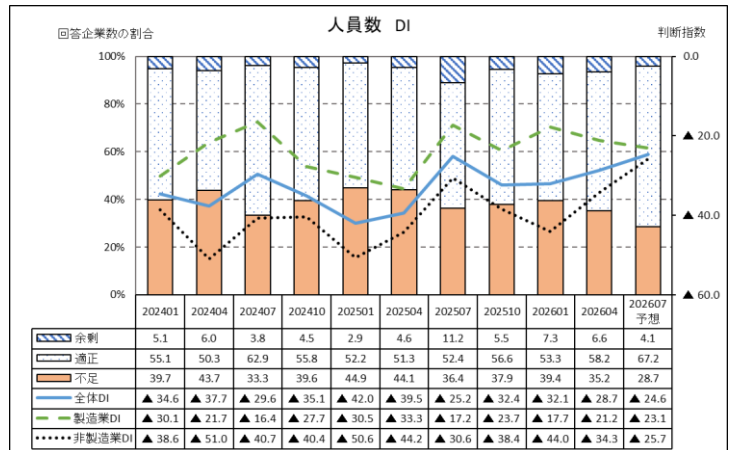
「消極的」11.4%（同▲0.6<sup>ポイント</sup>）であった。



## 人員数

人員数 DI は前回に比べ改善し、先行きも改善の見通し

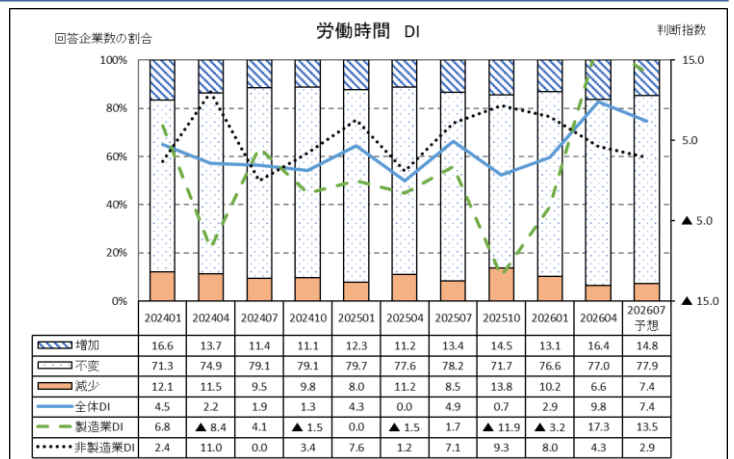
今期の人員数 DI における全体 DI は、▲28.7（前回比+3.4<sup>ポイント</sup>）と改善した。製造業 DI は▲21.2（同▲3.5<sup>ポイント</sup>）と悪化したが、非製造業 DI は▲34.3（同+9.7<sup>ポイント</sup>）と改善した。先行きでは、全体 DI は▲24.6（今期比+4.1<sup>ポイント</sup>）と改善するが、人手不足は続く見通しである。製造業 DI の先行きは▲23.1（同▲1.9<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは▲25.7（同+8.6<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しである。



## 労働時間

労働時間 DI は前回に比べ増加したが、先行きは減少の見通し

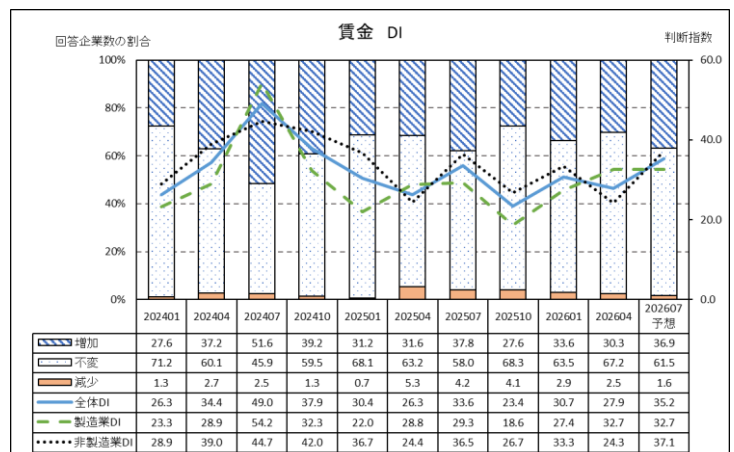
今期の労働時間 DI における全体 DI は、9.8（前回比+6.9<sup>ポイント</sup>）と増加した。製造業 DI は 17.3（同+20.5）と増加したが、非製造業 DI は 4.3（同▲3.7<sup>ポイント</sup>）と減少した。先行きでは、全体 DI は 7.4（今期比▲2.4<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しである。製造業 DI の先行きは 13.5（同▲3.8<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 2.9（同▲1.4<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しである。



## 賃金

賃金 DI は前回に比べ減少したが、先行きは増加の見通し

今期の賃金 DI における全体 DI は、27.9（前回比▲2.8<sup>ポイント</sup>）と減少した。製造業 DI は 32.7（同+5.3<sup>ポイント</sup>）と増加したが、非製造業 DI は 24.3（同▲9.0<sup>ポイント</sup>）と減少した。先行きでは、全体 DI は 35.2（今期比+7.3<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。製造業 DI の先行きは 32.7（同±0.0<sup>ポイント</sup>）と横這いの見通しであるが、非製造業 DI の先行きは 37.1（同+12.8<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。



## 経営上の課題（2つまで選択） 課題に対する対応方針（複数回答可）

経営上の課題として最も多かったものは「採算悪化」が58.2%であった。その課題に対する対応方針として「収益力確保」が32.8%、「受注単価の底上げ」が32.0%、「仕入原価節減」、「人件費削減・経費削減」がいずれも18.9%であった。

2番目に多かったものは「売上減少・停滞」が45.1%であり、対応方針として「新規取引先開拓」が34.4%、「新規事業の取組み・M&A（買）の検討」が9.0%、「販売強化のための増員」が4.1%であった。

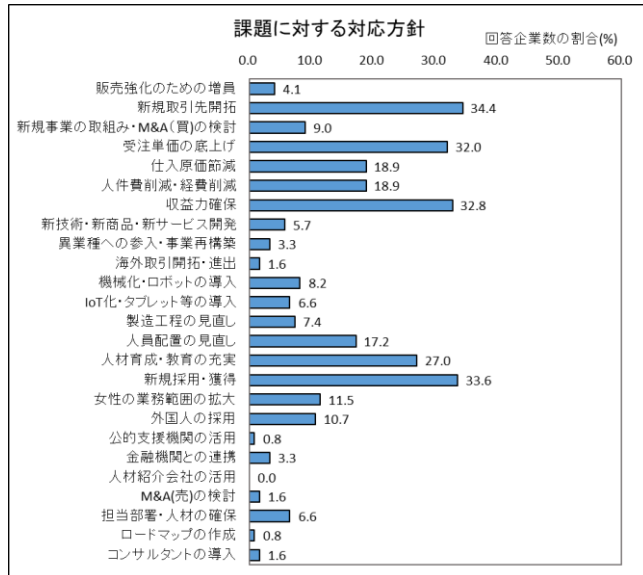
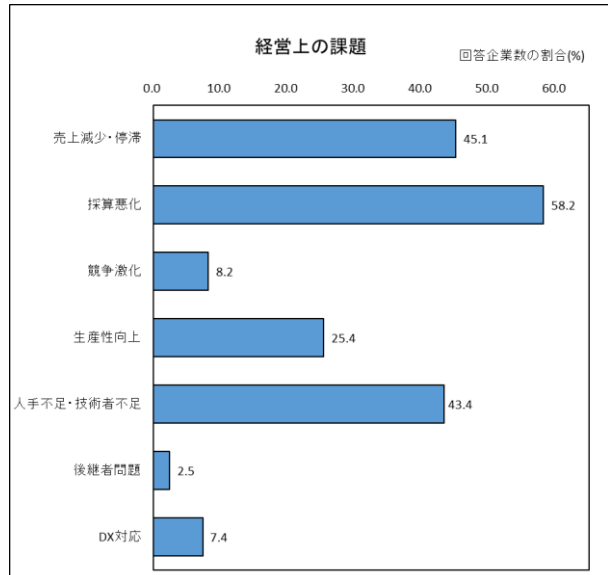
「人手不足・技術者不足」は43.4%であり、対応方針として「新規採用・獲得」が33.6%、「人材育成・教育の充実」が27.0%、「女性の業務範囲の拡大」が11.5%、「外国人の採用」が10.7%であった。

「生産性向上」は25.4%であり、対応方針として「人員配置の見直し」が17.2%、「機械化・ロボットの導入」が8.2%、「製造工程の見直し」が7.4%、「IoT化・タブレット等の導入」が6.6%であった。

「競争激化」は8.2%であり、対応方針として「新技術・新商品・新サービス開発」が5.7%、「異業種への参入・事業再構築」が3.3%、「海外取引開拓・進出」が1.6%であった。

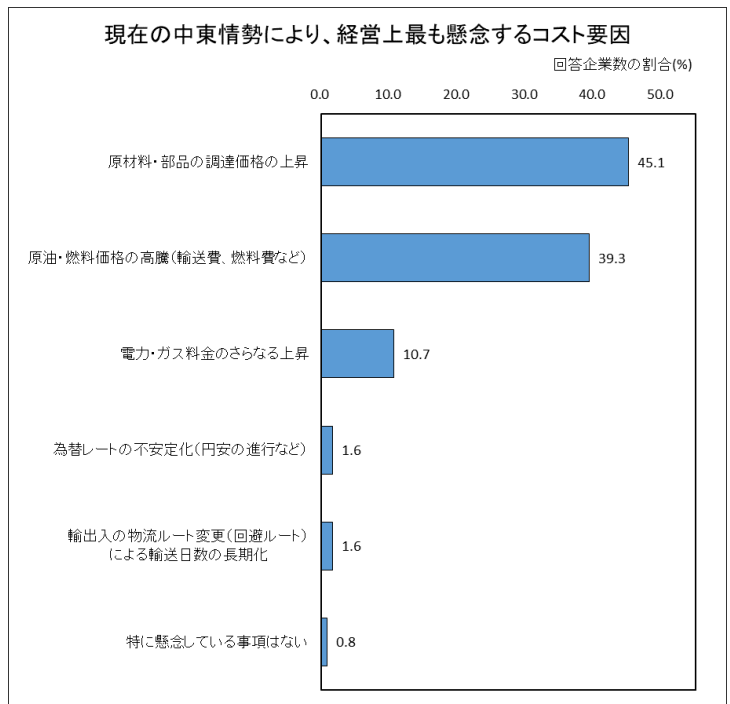
「DX対応」は7.4%であり、対応方針として「担当部署・人材の確保」が6.6%、「コンサルタントの導入」が1.6%、「ロードマップの作成」が0.8%であった。

「後継者問題」は2.5%であり、対応方針として「金融機関との連携」が3.3%、「M&A（売）の検討」が1.6%、「公的支援機関の活用」が0.8%であった。



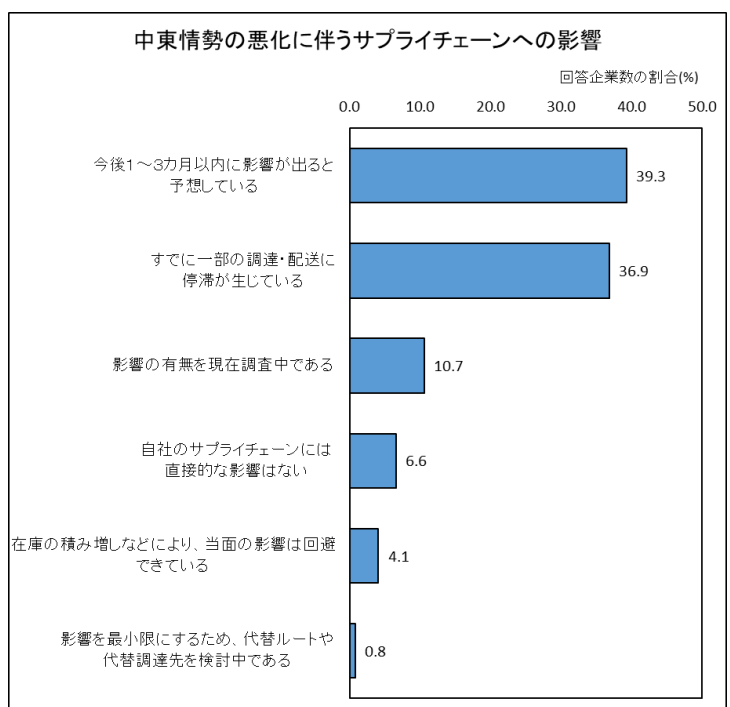
## 現在の中東情勢により、経営上最も懸念するコスト要因

現在の中東情勢により最も懸念するコスト要因として、最も多かったものは「原材料・部品の調達価格の上昇」が45.1%であった。2番目に多かったものは「原油・燃料価格の高騰（輸送費、燃料費など）」が39.3%であった。以下、「電力・ガス料金のさらなる上昇」10.7%、「為替レートの不安定化（円安の進行など）」「輸出入の物流ルート変更（回避ルート）による輸送日数の長期化」がいずれも1.6%であり、「特に懸念している事項はない」は0.8%であった。



## 中東情勢の悪化に伴うサプライチェーンへの影響

中東情勢の悪化に伴うサプライチェーンへの影響について、現在の状況に最も近いものとして最も多かったものは「今後1～3カ月以内に影響が出ると予想している」が39.3%であった。2番目に多かったものは「すでに一部の調達・配送に停滞が生じている」が36.9%であった。以下、「影響の有無を現在調査中である」が10.7%、「自社のサプライチェーンには直接的な影響はない」が6.6%、「在庫の積み増しなどにより、当面の影響は回避できている」が4.1%、「影響を最小限にするため、代替ルートや代替調達先を検討中である」が0.8%であった。



特徴的なコメント

業種	業況全般（現状）	業況全般（先行き）
飲食料品製造業	戦争の影響で、重油ばかりでなく値上げが相次ぎ、販売価格に反映できないため利益率が減少している	原材料、資材単価の上昇により採算が悪化する
木材・木製品製造業	取引先からの受注は3ヶ月前と比較してあまり変わらないものの、仕入単価は上昇している	原油価格上昇により輸入材の仕入価格が上昇することを危惧している 価格転嫁をしっかりと出来るか、更には輸出が停滞しないかが不安要素
パルプ・紙・紙加工品製造業	返済を一部止めている為、貸金は落ち着いている 全額返済するにはまだむずかしい	価格改定に合わせ不採算アイテムの見直しに着手する
金属製品製造業	戦争の影響は直接大きな事はない 商品によっては品薄な物もあり困っている	客先の動向に左右されるため、先行きは見通せない 期待して行動する
一般機械器具製造業	仕入れ価格が上昇している	現時点では見通しが立たない
自動車・同部品製造業	中東情勢により、一部仕入れの単価上昇、欠品による代替品での対応あり	塗料等の高騰が見込まれる
	中東向けにて一部売上減が生じている	エネルギー価格の上昇が見込まれる
	主要先での開発案件が大幅に減少しており、その影響は大きく当面厳しい業況が続く見通し	中東情勢の不透明感あり
その他製造業	原油高騰により資材の供給遅延、値上がりが見込まれている	世界情勢の影響が大きく、見通せない
建設業	足元の業況は大きな変化はない	今後イラン問題の影響が表面化すると強く懸念される
	中東情勢の影響により塗料用シンナーが不足している	石油関連資材（塗料・合材・ゴム製品）の値上がりは避けられないと思われる
卸・小売業	イラン戦争の影響により、メーカーからの出荷制限や値上げが多発している	当面は変わらないが、原油価格上昇の影響により採算悪化の恐れあり
物流・運輸業	イランショックによる燃料高騰と、軽油インタンク（自社構内給油用タンク）への納入困難	トラック燃料の軽油が1.5倍程上昇中だが、他の経費を削り採算悪化を防ぎたい
医療・福祉	石油製品の値上がり、在庫の確保が困難になっている	売上は引き続き堅調に推移すると見込まれるが、固定費が増加基調で、収益の圧迫が懸念される
その他サービス業	材料費の値上げが厳しい	従業員賃金の上昇と燃料費を中心に資材単価上昇により採算が悪化する懸念がある

業種	雇用（現状）	雇用（先行き）
木材・木製品製造業	中途採用により増加している	世間で言われている5%の賃上げは厳しい
パルプ・紙・紙加工品製造業	昨年パートが数人退職し、外国人実習生が終了する為、新規採用する	外国人実習生2名決定
金属製品製造業	人員減に伴い在籍社員の仕事の負荷が一時的に増加している	将来を担う人材を育て行きたい中、人手が集まらず人材確保が課題 賃上げだけが問題ではない
一般機械製造業	去年2名採用した為、今期は様子を見ている	先行きは良いとは言えない状況
自動車・同部品製造業	新入社員の初任給引き上げ、定期昇給により賃金は上昇する見込み	売上増加に伴い残業が増加
建設業	外国人労働者の採用を予定	外国人労働者の確保、高卒採用も進めていく
	人員確保、採用については相変わらず苦戦している	賃金増加は覚悟せざるを得ない 採用については継続して注力するも弱含み
卸・小売業	人員不足により既存従業員の労働時間が増加 採用は厳しい	採算悪化した場合、大きな賃金上昇は難しい
物流・運輸業	時給単価を高めに設定したら、求人広告に反響があった	求人広告の施策を継続する
物流・運輸業	退職者が出た場合同数を採用し、人員数は適性を維持している	ペースアップ要求に対し、実施を検討中
医療・福祉	人材の定着が課題である	引き続き人材の定着のための方策を講じていきたい
その他サービス業	4月の給与から基本給5%積み増しを行った	

調査の概要

調査時点：2026年4月3日～4月17日

調査方法：郵送による記名アンケート方式

及びWebによる回答方式

対象企業：清水銀行取引先企業 220社

回答企業：122社

回答率：55.5%

業種名	先数
飲食料品製造業	5
木材・木製品製造業	5
パルプ・紙・紙加工品製造業	6
化学工業	1
金属製品製造業	9
一般機械器具製造業	9
自動車・同部品製造業	12
その他製造業	5
建設業	17
不動産業	4
卸・小売業	14
物流・運輸業	13
医療・福祉	11
その他サービス業	11
計	122

株式会社清水地域経済研究センター

発行日 2026年5月7日

〒424-0941 静岡県静岡市清水区富士見町2番1号

Tel.054-355-5510 Fax.054-353-6011 E-mail smz-center@smz-kenkyu.jp 担当：杉山